

「江戸街道プロジェクト」の取組状況

関東運輸局 観光部

令和6年3月4日（月）



- 江戸街道プロジェクトプロデュース「街道観光シンポジウム」の開催
- 「伝説や逸話をコンテンツとした地域誘客促進企画」調査業務
- アプリを活用した街道観光への誘客・周遊促進に関する実証事業
- 街道観光プラットフォーム（仮称）構築による街道観光振興への効果検証事業
- 江戸街道プロジェクト「江戸街道、料理で伝える歴史と文化の旅」事業
- 分散型宿泊（アルバルゴ・デザイナーズ）による地域活性化の取組

『めぐる、あるく、つながる～現代に受け継がれる江戸文化の再発見～』と題し、街道観光シンポジウムを開催。本シンポジウムでは、プロジェクトの進捗状況の報告のほか、プロジェクトを具体的に進めていくテーマとして「江戸料理」と「アルベルゴ・ディフーゾ」に関する基調講演とパネルディスカッションを実施した。

開催日時

日時：令和5年7月7日（金）14：00～16：30
場所：リクルートGINZA8ビル
開催形式：現地・オンラインのハイブリッド形式で開催

協力・後援

協力：一般社団法人 中央区観光協会
後援：公益社団法人 日本観光振興協会 関東支部
日本政府観光局（JNTO）

プログラム等

1. 主催者挨拶 関東運輸局長 勝山 潔
2. 江戸街道プロジェクトの紹介 関東運輸局 観光部
3. 基調講演
 - (1) 「錦絵（浮世絵）にみる江戸時代と江戸料理」
（株）時代村 事業戦略室 室長 佐藤 達雄 氏
 - (2) 「宿場町のアルベルゴ・ディフーゾ化戦略
～地域連携とインバウンド集客の進め方を中心に～」
（一社）日本インバウンド連合会
理事長 中村 好明 氏
4. パネルディスカッション
江戸料理と宿場町の活用による街道観光振興に向けて

<コーディネーター>

丁野 朗 氏 （公社）日本観光振興協会 総合研究所 顧問

<パネリスト>

山崎まゆみ 氏 跡見学園女子大学 兼任講師
高橋 佑司 氏 （株）リクルート 地域創造部 部長
佐藤 達雄 氏 （株）時代村 事業戦略室 室長
中村 好明 氏 （一社）日本インバウンド連合会 理事長
岡村 清二 氏 関東運輸局 観光部長

登壇者



<基調講演 左：佐藤氏、右：中村氏>



<パネルディスカッション>

会場の様子



<会場全体>

参加者

| | | |
|----------|---|------|
| 会場参加者 | ： | 91名 |
| オンライン参加者 | ： | 134名 |
| 合計 | ： | 225名 |

街道沿いには、いにしえより語り継がれたその地域における伝説や逸話が数多く残っており、地域を訪れた旅行者にとって魅力的なコンテンツとなっている。近年では日本の歴史や文化に興味ある欧米豪を中心としたインバウンドの誘客促進に有効に働いているものと考えられる。本調査業務では、各地域に伝わる伝説や逸話をインバウンド向けに英語で講談することにより、誘客促進の効果等を検証するものである。

開催日時等

日 時：令和5年8月28日（月）～29日（火）
 両日各2回
 ① 17:00～18:00
 ② 19:30～20:30

場 所：回向院（墨田区両国2-8-10）
 内 容：本所七不思議の英語による講談

出演者

講談師：神田ようかん氏
 三味線奏者：鶴澤弥々氏
 演者：宮下幸生氏、鶴田彩氏
 演出：田上ひろし氏
 （劇団スーパー・エキセントリック・シアター）

参加者

| 【開催回別】 | 【出身国別】 |
|------------|--------------|
| 8/28 ① 2名 | イタリア 4名 |
| 8/28 ② 8名 | フランス 4名 |
| 8/29 ① 3名 | アルゼンチン 3名 |
| 8/29 ② 14名 | メキシコ 2名 |
| | ベトナム 2名 |
| | アメリカ他10カ国 1名 |
| | 不明 1名 |
| 合計 27名 | 合計16カ国 27名 |

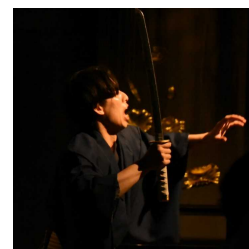
公演の様子



神田ようかん氏



鶴澤弥々氏



宮下幸生氏



鶴田彩氏

参加者の声

- 満足度 「非常に満足」・「満足」 : 97%
 - 有料で行う場合の適切な金額 1,000円～2,000円 : 59%
- （良い点）
- パフォーマンスのさまざまな要素の説明が非常にわかりやすく、伝統的な講談芸術を理解することができた。
 - 講談師の英語が聞き取りやすかった。
- （改善点）
- 演者の発音が必ずしも明瞭ではなかった。

今後の展開

今回の事例をモデルケースとして、来年1月から2月にかけて他地域において英語講談会を実施予定。10月中に公示予定。

本実証事業では、アプリを活用した観光振興のニーズや有効性の検証、アプリの利用率を上げるための課題や改善点等を抽出するための調査を実施。また、検証用のアプリ活用による街道観光への誘客と周遊促進・消費拡大への効果およびその有効性を検証するとともに、実証で得られた結果を基に他地域へ横展開するための課題や方策を検討する。

実施概要

- ① 実証エリア：神奈川県 小田原市
〈連携予定：小田原市、小田原市観光協会、小田原まち歩き実行委員会〉
- ② 実証時期：令和5年11月から令和6年1月まで
※ アプリの利用は3月29日まで可
- ③ ターゲット：年齢・性別・国籍を問わず全ての方
- ④ 利用促進PR
 - ・WEBメディア等による告知活動
 - ・実証エリア内でのPR活動
- ⑤ 効果検証
 - ・詳細な利用状況データ分析（アクセスログ分析）
 - ・モニター調査（モニターへの詳細ヒアリング）
 - ・利用者満足度調査（利用者アンケート）
- ⑥ 次年度以降の他地域への展開と手法の検討
 - ・横展開に向けた課題の抽出と導入ノウハウの提示

検証用アプリの主な実装機能

旅行者参加型投稿機能

- ・旅行者がスマートフォンで撮影した「画像」や「コメント」をアプリで投稿
- ・管理者（＝事務局）による審査の上、フォトライブラリーに掲載。

地域の魅力発信・誘客



観光情報配信機能

- ・GPSの位置情報を参照し、近くの観光情報を自動で表示。
- ・周辺の観光情報だけでなく、お得なクーポン情報等も発信し、周遊・消費を促す。
- ※情報は地域が希望するものを募集して配信

万歩計機能

- ・街道を歩ききっかけや楽しみの創出

周遊促進・消費拡大

・多言語対応、無償提供（今年度は英語・日本語のみでテスト）

本検証事業は、地域の観光コンテンツやPRツール等を集約し、広域関東における街道観光の情報を一元提供できるプラットフォームの構築に向け、プラットフォームの基となる検証用のサイトを開発・運営し、インバウンドおよび国内旅行者の誘客と周遊促進に対する有効性を検証するとともに、次年度以降の本格的なプラットフォームの構築・運用に向けた課題を抽出して、運営体制を含め具体的なコンテンツや方策を検証・整理するものである。

実施概要

① 検証用サイトの搭載予定コンテンツ

- ・江戸街道プロジェクトの概要案内ページ
- ・おすすめ情報抽出システム（システム等により情報を自動収集）
- ・各街道関連サイトの検索・リンク機能
- ・特集記事ページ
- ・ビジュアル・アーカイブの整備（街道の画像や映像のギャラリー化）
- ・コミュニティ機能（旅行者からの投稿機能など）

② サイト利用促進のための方策

- ・関連団体のHPやSNS等を入り口として、当サイトへ誘導するためのメディア戦略の構築、効果の検証
- ・検証用サイトを周知するためのプロモーション実施
- ・検索エンジンのSEO対策

③ 検証用サイトの効果検証

- ・サイト利用者を対象としたアンケートの実施

- ・アクセスログの分析
- ・街道観光振興への波及効果の把握
- ・本格運用に向けた課題の整理

④ 次年度以降の実用化に向けたプラットフォーム完成図の提示

検証結果を踏まえ、具体的なコンテンツ、デザイン、サイト運営・管理手法等の完成図を作成

街道観光プラットフォーム（仮称） トップページ



【実証機関】

令和6年1月～2月
※ テストサイトは3月
下旬まで公開

目的

江戸料理をテーマとして、その魅力や歴史にクローズアップし、外国人観光客に向けた新たな観光コンテンツとして活用。広域関東エリアにおける消費額拡大や高付加価値なコンテンツ造成の推進を図る。

千住宿江戸料理のメニュー開発

1 江戸料理研究家による開発

- ・旧千住宿にある和食板垣が協力
- ・料理研究家、冬木れい先生の派遣
- ・和食板垣料理長と冬木れい先生で意見交換
- ・共同開発メニュー（試作の完成）



開発メニューの一例

2 試作メニューの完成、試食会

- ・足立区関係者のみなさまにご試食・千住宿江戸料理と称するにあたってのご意見をいただいた。



試食会の開催

3 開発メニューブラッシュアップ

- ・お披露目会にて提供

江戸料理を宿場観光に組込

まち歩き+江戸料理体験

- ・海外展開を視野に実際の観光体験に組み込んだ成果を確認するため、観光まち歩きに江戸料理体験を加えたモデルツアーを実施
- ・インフルエンサー(Megan氏)に体験してもらい、インバウンドへの訴求に向けた検証を行った。



千住宿まち歩きの様子

江戸料理の訴求展開

1 千住宿江戸料理のお披露目会開催

- ・有識者、旅行会社、地域団体、宿泊事業者等の影響力の高い方々をお招きし、開発メニューの提供と本事業の趣旨を認知していただいた。



お披露目会の様子

2 訴求媒体の制作

- ・イメージ動画の制作
- ・散歩の達人での記事制作1件
- ・その他記事掲載、新聞1件、WEBメディア2件、雑誌1件
- ・海外向けSNS(Tiktok、Instagram)による訴求展開



各訴求媒体の制作

3 江戸料理体験セミナー開催

- ・パネルディスカッションを開催、観光の有識者をファシリテーター、江戸料理の有識者をパネリストに据えたコラボレーションにより江戸料理の観光活用の議論を深めた。
- ・参加者には江戸料理を試食も実施、座学だけでない体験型のセミナーとして開催。



体験セミナーの様子

「江戸料理体験セミナー in 日本橋 開催

開催目的

江戸街道プロジェクトの具体的な取り組みの一つとして、『江戸料理』をテーマに掲げた「食」による広域関東の観光振興をアピールする目的で、業界への訴求力のある事業者、旅行会社、地域団体を招請したセミナーを開催した。

セミナーでは、江戸街道プロジェクトが注目する江戸料理とモデル事業について説明したほか、パネルディスカッションでは、観光の有識者をファシリテーターに据え、江戸料理の有識者とのコラボレーションによる江戸料理の観光活用について議論を深めた。参加者には座学での江戸料理の学びだけでなく、会場である「奈美路や」の江戸料理を試食してもらい、座学だけでなく体験型のセミナーとして開催した。

開催概要

■日時 2024年2月14日（水）
11:30～14:00

■場所 江戸料理 奈美路や

■当日次第

1. 開会 関東運輸局長
2. 江戸街道プロジェクト事業説明
関東運輸局 観光部
3. 江戸料理とは
(株)時代村 佐藤 達雄 氏
4. モデル事例紹介 受託事業者
5. パネルディスカッション
「江戸料理による地域の観光振興」
ファシリテーター
日本観光振興協会総合研究所 丁野 朗 氏
パネリスト
江戸料理研究家/大塚なべ家元主人 福田 浩 氏
江戸東京・伝統野菜研究会 大竹 道茂 氏
料理研究家/大きな竈 冬木 れい 氏
関東運輸局 観光部長
6. 江戸料理体験(試食)&アンケート
7. 閉会



勝山局長による
開会挨拶

開催結果

■セミナー参加者数 45名
報道・出版、旅行・団体、その他

■参加者の主なコメントの紹介(一部要約・抜粋) パネルディスカッションについて

- ・貴重な話が多くもっと長く聞きたかった(報道・出版)
- ・先生の話に感銘を受けた(報道・出版)
- ・キャスティングに工夫を感じられた(旅行)

江戸料理体験について

- ・江戸東京の歴史の観点から江戸料理を理解すると認知が深まる(報道・出版)
- ・現代でも十分に質が高く、価値があると思う(旅行)

広域関東における「江戸料理」活用について

- ・江戸料理の店舗のまとめサイトやストーリーが分かる統一文があると使いやすく案内もしやすい(旅行)
- ・インバウンドへの活用を考えていきたい(団体)
- ・もっと広める工夫を一緒に考えていきたい(団体)

■セミナー取材会社による記事掲載(2件)

- ・交通新聞 2月16日付
- ・歴史人WEBニュース 2月19日



会場の様子



パネルディスカッション



江戸料理体験&アンケート

分散型宿泊（アルベルゴ・ディフーズ）による地域活性化の取組

空き家・古民家等を再生して宿泊施設に利用するなど、地域一帯で宿泊経営を行うことで、空き家問題の解決や旅行者の滞在、交流の創出等が期待できる「分散型宿泊（アルベルゴ・ディフーズ）」の取組を推進する。

令和5年度においては、分散型宿泊の対象となりそうな地域を選定し、選定地域から専門家・有識者に対して観光全般の現状についてプレゼンテーションを実施。その後、現地視察を実施して地域の実情を把握したうえで、今後の取組の進め方などを検討していく。

取組支援地域選定の経緯

本事業の活用を希望した団体に対してヒアリングを実施し、取組支援候補地域を選定
(選定地域：群馬県みなかみ町・神奈川県南足柄市)

専門家・有識者に対してプレゼンテーションを実施
⇒支援対象地域として選定・取組支援開始

選定した2地域において、現地視察を実施して、地域の実情等を把握

○今後は専門家・有識者の意見・助言等を頂きながら、取組の進め方を検討
・地域の状況把握、課題の抽出・対応検討
・取組プランの検討、立案 など

専門家・有識者（敬称略、順不同）

高橋 佑司（㈱リクルート地域創造部 部長）
山崎 まゆみ（跡見学園女子大学 兼任講師）
ルース・マリー・ジャーマン（実業家）
土屋 武司（足立成和信用金庫 理事長）
俣野 喬仁（㈱さとゆめ事業創造チーム チーム長）

地域における取組推進方法

地域における課題

宿泊施設が少なく、日帰り客が多い
観光客の滞在時間が短い

地域に空き家が増加しており、
その活用が必要

空き家等を分散型宿泊施設等に活用し、地域の中で宿泊や飲食、買い物等の機能を分散させ、旅行者の滞在時間を増加、交流の創出等を目指す

空き家等の維持管理、改修、運用や地域一体となるまちづくり体制の確立が不可欠

地域一体となってまちづくりを行う組織・取組体制の構築の必要性

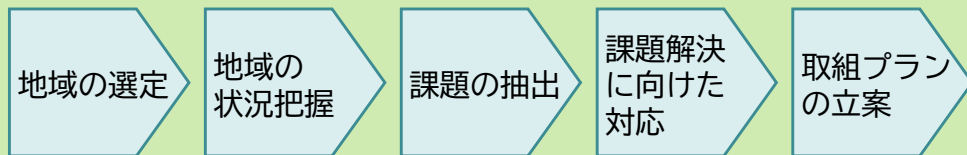
地域における分散型宿泊施設整備に向けた取組

- 自治体や地域の関係者が集まる場の構築（ビジョンの共有、関係構築）
- 現状分析と課題、懸案点の整理（現状整理・課題解決）
- 空き家等の持ち主との調整（施設整備・運用）
- 資金調達方法の検討（資金調達）
- 取組実施主体の検討（事業実施体制・組織づくり）

専門家・有識者

◇専門家・有識者によるアドバイスの実施

取組の主な流れ



○分散型宿泊（アルベルゴ・ディフーズ）取組実施体制の構築
○持続的な協議の場の構築

「江戸街道プロジェクト」は、「江戸街道」という統一のテーマを各地域の観光関係者等に提示して、地域ごとに行っている点の取組等をこの統一テーマにより連携して取り組むことで、地域ごとの取組等を線でつなぎ、広域関東において面的な街道観光の取組として発展させることである。

これを踏まえ令和6年度においては、以下の取組項目案により各地域が連携して取り組むよう促し、広域関東全体が連携できるように取り組んでいく。

- 「地域連携による大型B to Cイベント」の実施
- 「江戸料理」を活用した事業の実施
- 「分散型宿泊（アルゴ・ディーズ）」による地域活性化の取組
- 「街道観光プラットフォーム（仮称）」の本格運用による地域が連携した街道観光情報の一元的な提供
- 「地域観光新発見事業（R5補正予算）」を活用した街道観光の推進に資する事業への支援・協力

※ 上述の取組予定については、現時点における取組項目案であり、実施内容の詳細は検討中です。

国内外を問わず幅広く「江戸街道」を知ってもらい、各地域で街道観光に取り組む方々がプロジェクトの目的、理念、想いをひとつにできるようロゴマークを作成

ロゴマークについては、認知度向上、模倣防止の観点から商標登録の出願をして、昨年12月に特許庁から商標登録が認められました。



江戸街道プロジェクト ロゴマーク

街道ブランドによって、これからも様々な歴史を結ぶことを象徴的に表現するため、世界を表す円環と5色の街道により構成されるデザイン

■特許庁へ商標登録

登録番号：登録第67671021号

出願日：令和5年5月16日

登録日：令和5年12月11日

商標権者：国土交通省 関東運輸局長